

## ジョイサポコラム No.17

## 三浦半島で過ごした今までとこれから

横須賀共済病院 健康管理センター 上野 春菜



コラムを書きませんか？とお声かけをいただき、何を書いたら良いのかと考えを巡らせていたところ、自分が今まで三浦半島で過ごした時間を振り返る良い機会になりました。

2004年に横須賀共済病院に赴任し、消化器内科に所属させていただきました。当初1年の勤務予定だったところ、後任がなくなったことと自分が継続勤務を希望したことから10年所属させていただきました。その後結婚を契機に（既に高齢出産となる年齢になっていたこと・不妊治療への通院を希望していたことから）健康管理センター勤務へ異動させていただきました。消化器内科への残留から健康管理センターへの異動までは医局人事外で大変ご迷惑をかけてしまいましたが、当時の部長他スタッフの方々が受け入れてくださり、いくら感謝しても足りないくらいお世話になりました。

診療科での業務から、健診業務と通院の日々になり、生活はがらりと変わりました。不妊治療の受診日は急に決まるので、数時間抜けさせてもらってまた急いで戻るという日

常でした。有り難いことにその後妊娠にいたり、体調変化とつきあいつつ仕事を継続し、産休育休を取らせていただきました。健診業務を教わりつつ、通院・妊娠・出産育休と1人前に業務に従事することが出来ない自分なのに、ずっと支えてくださったのが健康管理センターの上司でした。

そして育休後の復帰では、ご多分に洩れず子どもの発熱で保育園から連絡が入る日々となりました。職場に迷惑しかかかっていないのではないかと頻繁に発熱する我が子を、もっと自宅で過ごさせてあげた方が良いのでは？とこの頃は自分を責めていました。そんな時も上司や職場の先輩ママさん達の“この状態がずっと続くわけではない。落ち着いて仕事ができる日が来るよ”という励ましと支えを頼りに続けることが出来ました。そしていつしか“子どもが最後に発熱したのはいつだったかしら？”と思い出せないくらい元気に登園するようになり、日中は業務に専念できるようになりました。

次の転機は、上司から“次の健康管理センター長を引き受けませんか？”と打診があったときでした。子どもはまだ園児でこれから就学をひかえ、夫は早朝から夜遅くまでの通勤で平日はほぼワンオペだった育児生活…果たして両立できるだろうかと逡巡しました。一方で今までずっと支えてくれた職場や上司に恩返ししたい気持ちもありました。すると夫が、自分が仕事を抑えて育児を担うのも良いと思うと提案されました。働き方について夫婦で話し合い、ついに夫が会社に辞職の申

し出をしたところ、上司から“育児と両立できるならリモートワークをしないか？”と思わぬ提案を受けました。当時（コロナ禍前）はまだ夫の会社でリモートワークは行われておらず、育児や介護と両立できる働き方のモデルケースになって欲しいという有り難い提案だったのです。そんな経緯で無事に共働きを続けることが出来、今に至ります。今まで経験させていただいたことを今後は次の世代を支えることで繋げていきたいと考えています。

最後に少し家族での楽しみのお話をさせてください。息子は水生生物に魅了され、休みに

なると水族館は勿論のこと、磯遊びに行くのも好きになり、タイドプールで生き物を観察して過ごすようになりました。三浦半島では磯遊びの出来る場所が多く、東京湾フェリーで房総半島にアクセスも良く、横須賀で育てられて良かったと感じています。シュノーケリングは我々夫婦の数少ない共通の趣味ですが、魚見たさにととう息子もシュノーケルデビューをいたしました。これからも海に近いこの地で、少しでも長く子どもと楽しめるように、そして働き続けられるように、体力維持に努めます。